

世界最先端の内視鏡治療

Endoscopic Treatment

当科は、早期胃癌に対する内視鏡治療として、1990年代に世界に先駆けてITナイフを用いた内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を開発し、同時に早期胃癌に対する内視鏡治療の適応を拡大しました。現在では食道表在癌や大腸早期癌に対してもESDの適応を広げ、国内外におけるESDの普及に貢献しています。

安全で確実な最先端の内視鏡治療

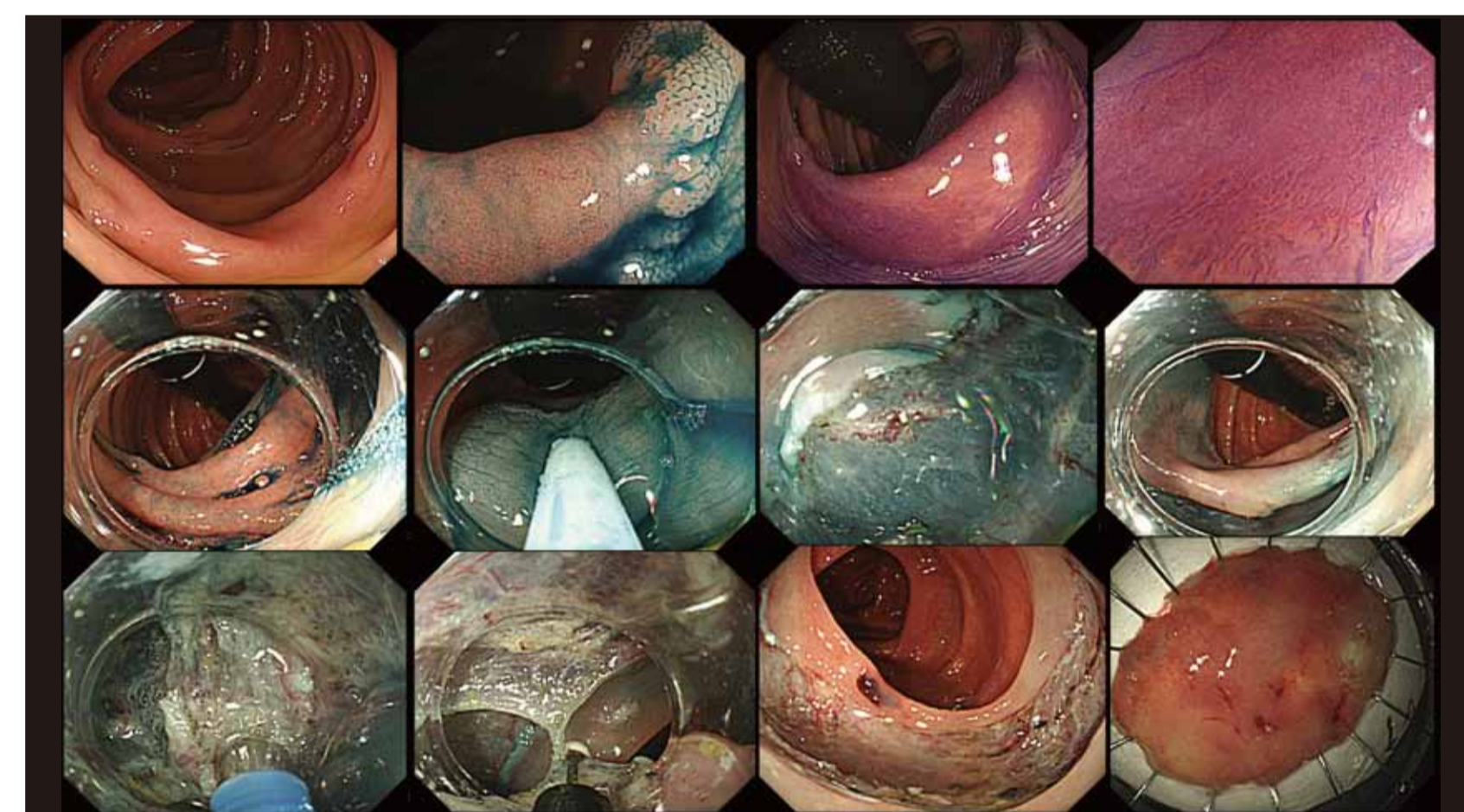
当科は、早期胃癌に対する内視鏡治療として、1990年代に世界に先駆けてITナイフを用いた内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を開発し、同時に早期胃癌に対する内視鏡治療の適応を拡大しました。現在では食道表在癌や大腸早期癌に対してもESDの適応を広げ、国内のみならず国外におけるESDの普及にも貢献しています。

この治療法が開発される前までは、早期癌であっても外科手術が行われてきましたが、この治療法の確立により、大きな病変も含めて安全で確実に内視鏡で治療が行えるようになりました。当科の内視鏡治療成績は世界的にみても常にトップクラスであり、世界中からの研修生も後を絶ちません。また、日本創製のESD手技を普及させていくために、全世界で講演やライブデモなどに参加し技術指導を行っており、国際的な貢献も行っています。

更に、当科では新たな内視鏡治療を患者さんに提供するため、多くの臨床研究を積極的に行っており、国内外の学会や論文報告を通じて、これらで得られた知見の啓蒙に日々努めております。



胃ESD



大腸ESD



海外からの研修生



学会発表



ライブデモ・技術指導

製作:内視鏡科 画像協力:オリンパス